

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域密着型サービスとしての理念の再検討をしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	認知症介護実践者研修を受講した職員の提案により、ユニット職員の理念を作成し、実践に向けて日々取り組んでいる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	近隣の保育園・小中学校との交流に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域の方が気軽に立ち寄れるまでは至っていない。地域交流は今年度の運営方針に掲げており、前年度以上努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域住民の一員として、リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加できるよう取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が地域の高齢者にサービスを還元するまでには至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が職員に聞きながら行っている。外部評価の結果はカンファレンスで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるために努力している。	○	要改善とされたところに関しては、速やかに改善している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いはされているが、運営推進会議での内容がサービスに反映されているとは言い難い。	○	入居者家族に出席してもらい、家族の声または入居者の代弁者としての意見をいただき、これからのサービスの向上に向けて取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも相談、指導を仰げる関係作りを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全ての職員が権利擁護事業や成年後見制度について学んでいるとはいえない。まだ制度申し立てを行った入居者はいないが、必要な場合は活用できるよう支援していく体制は取っている。	○	勉強会の機会を設け職員の理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で年に1回、勉強会を実施し、高齢者虐待防止法の理解と虐待行為を発見した場合の対応方法について、事業所で周知徹底に取り組んでいる。	○	特に管理者は虐待の危険性を予見し、その防止に徹底的に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には当事業所としてできるだけ時間を割き、入居者のご家族の疑問不安に答えるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のご意見・不満・苦情は全ての職員が受け付けられるような体制を取っている。苦情受付を自筆または職員の代筆にて受け付ける体制を取っている。	○	入居者からの言葉や態度からその思いを察する努力をし、その時々入居者の不安・意見等は各ユニットごとに話し合い、日々のケアに活かせるよう努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ご家族に入居者の担当スタッフより、健康状態・生活の様子・お小遣いの使用明細等、郵送にて送付している。また、その月に一度すずらん便りを作成し、当面会時には口頭にての報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見・不満・苦情は、全ての職員が受け付けられるような体制を取っている。また、ご意見箱を設置している。また、当事業所以外の外部者にご意見・苦情を伝える手段機会は毎月の郵送物において周知している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや勉強会において、運営者・管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている。しかし、個別の意見・要望までは把握しきれていない。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の要望・望む暮らしの実現のためにできるだけ努めているが、夜間帯は1名の職員の勤務体制になっており必要な時間帯に十分な体制とは言えない。	○	退職者など職員の急病や急な休みに対応できる人材の確保に努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は基本的に固定しており、馴染みの関係作りに努めている	○	離職やそれに伴う職員の異動は避けられないが、入居者のダメージを最小限に食い止める努力をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に各1回施設全体・各部署における勉強会を開催している。また、広く研修を受ける機会を設けている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟しているが、職員や管理者が同業者と積極的に交流する機会はない。	○	他のグループホームの見学や相互研修など横の連携を持ち、当施設の問題点や改善点を明確にしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中は入居者と離れる時間はほとんどない	○	職員のみで休憩および気分転換できるスペースの確保が必要である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則は作成している。設立母体が医療機関であるため職員の健康診断・予防接種など健康を保つための対応は行っている。また、資格取得のための支援も行っている。	○	職員のやりがいや向上心の持てる職場環境や労働条件の整備について検討したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・相談受付の段階から入居者ご家族の不安訴えを受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談受付の段階から特に困っていること、不安に感じていることを表出していただけるように努め、それを聞く時間をとるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の段階から困っていることの聞き取りを行い、即時的なニーズの把握に努めている。当施設より入居者にとって最適なサービスの紹介も行っている。	○	当施設内の居宅支援事業所を通じての対応も行っているが、地域包括支援センターや他の事業所との連携を図っていくようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・相談受付の段階から入居者希望の自宅または待機場所に何度か出向き、少しでも安心して入居していただけるように支援している。	○	ご家族または入居前の待機場所などから情報や協力を得て入居者のスムーズな入居に向けて支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として尊敬の念を持って接している。学び、支えあう関係作りを行っている。	○	職員が入居者から学ぶ場を生活の中に自然体で多く持ちたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の様子やエピソードを面会時や電話・家族報告書・すずらん便りなどにより伝えることで、相互の信頼・協力関係を築くようにしている。	○	自然体で入居者の家族ならではの精神的な側面からの支援をしていただけるよう配慮していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に気軽に面会に来て頂けるように配慮している。家族・施設・地域で利用者を支えあうための方策について検討している。	○	現在は家族交流会に少しでも多くの方が参加していただけるように努力している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り個人個人の生活習慣を理解し尊重している。	○	すべて個別化するは人員上困難であるが、事情の許す限り入居前の生活を尊重し、継続できるように努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となるだけでなく、入居者の中のムードメーカーになる方にも力を発揮していただき、孤立した存在を作らないように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	残念ながら契約終了後の関係作りは行っていない。	○	施設からご自宅に帰られた利用者の経過についてもフォローしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、主体はあくまでも利用者であるという認識を持っている。ただ、意思の表出が困難な方については、ご家族の意向が優先されがちである。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に差し支えのない範囲でバックグラウンドに関する情報を頂いている。特に施設に適應していただくまでの支援にとって重要な情報である。	○	情報収集のために必要以上、プライバシーに踏み込まないように留意したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの習慣やリズムを把握し、可能な限り個人のペースを尊重するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの新規・更新時には必ず本人ご家族から要望は聞いている。職員全体でモニタリング・カンファレンスを行い、可能な限り利用者主体の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月の中でケアプランが実情に即していないときはプラン変更している。その場合は、本人・ご家族・医療関係者等と話し合っってケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事・水分量・排泄・日々の暮らしの様子を記入している。ケアプランにそって介護しているか表によりチェックしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでのデイサービス・ショートステイは実施していない。医療連携加算の指定は受けている。	○	将来的には利用者の状態に即時に対応できる柔軟性を持った施設を目指したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	まだ取り組めていない。	○	今後、運営推進会議を充実して地域資源の活用や連携を図って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容を利用させていただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席していただいている。	○	今後、周辺情報や協力関係を築いていきたい。成年後見制度が必要な利用者がある場合は協力して支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診通院はご家族と協力して対応している。基本的には家族同行をお願いしているが、難しい時には職員が同行している。協力医の定期往診も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今のところ認知症の専門医との協力体制はとれていない。	○	認知症専門医との協力関係を築き、ご家族、職員共に相談、助言を仰げるよう取り組みたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に対応できる体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者のきめ細かい情報を提供し、入院中はお見舞いをかねて状態の把握、退院後の支援にむける体制作りをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を作成して、事業所が対応できるケアの説明を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者のすべてとはいえないが、ご家族と話し合い利用者の重度化または終末期に対する意志の確認をしている。	○	重度化・終末期の利用者の支援のために職員のケアの向上に努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、介護経過などの情報提供を行い、新しい環境に馴染んでいって頂けるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に個人情報の秘密保持を徹底し、日々の関わり方を管理者が点検し、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を図るよう努めている。	○ 排泄の誘導や介助、失禁時の対応についてプライバシーを配慮するとともに、入浴の時に人前で裸になる羞恥心などについても十分に配慮したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に複数の選択肢を提案し、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出す取り組みを行っている。	○ 食事の場面では、調味料をテーブルの上に置き、入居者一人ひとりが自分で決める場面をつくっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。	○ 買物や散歩、一人ひとりの状態や思い、要望に配慮しながら対応している。しかし、職員の勤務体制に余裕がなければできないことが多く、限られた人員の中でも提供できるケアを考えたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の意向で決めており、必要時に手伝っている。自己決定がしにくい入居者には職員と一緒に考えている。	○ 個々の生活習慣に合わせて支援し、本人の希望に合わせて理容・美容の店に行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、調理、盛り付け、片付け等も入居者と一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切に取り組んでいる。	○ 食後はすぐに下膳しようとする入居者もいるが、「ゆっくりとしましょう」と声をかけてコミュニケーションの場が取れるよう取り組んでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解し、本人の様子や時間をみながらそれらを楽しめるよう支援している。	○ お抹茶の好きな方には、自分でお茶をたてて飲んでもらったり、おやつなどは本人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。また、排泄チェック表を使用し、尿意の訴えない入居者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間以外に1日を通して入浴時間を取っており、入浴したい日、希望する時間に入浴していただけるよう取り組んでいる。	○	入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレーでその人にあった入浴支援に取り組んでいる。また、足冷え対策として、足浴に取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。	○	数日間の活動や出来事、本人の生活習慣等を職員間で相談しながら支援している。また、寝つけない時には、温かい飲み物などを飲みながら対応するなどする配慮をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野で力を発揮できるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	食事の準備・後片付け、衣類の繕い物、掃き掃除など、一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている入居者もいる。自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につながるよう支援している。	○	家族よりお金を預かり、事業所が管理している入居者は、外出時などでは、お金を手渡して、自分で支払ってもらえるように工夫している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の希望に応じて、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物などに出かけている。また、月1回ユニット全員で外出し、短時間でも戸外に出る機会を作るとともに、気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られる貴重なチャンスとして取り組んでいる。	○	一人ひとりが外出を楽しめるよう取り組んでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的な外出支援を行っているが、個別性の高い特別な外出支援は取り組みに至っていない。	○	遠くへの外出ではないが、個人の行きたいとの要望があれば、計画を立てて職員の勤務を調整する等、外出支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	有料老人ホームの玄関に公衆電話があるが、プライバシーの確保は十分にはされていない。入居者からの電話の希望があれば、事務所内の電話を使用している。年賀状は毎年出せるような支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は午前9時～午後6時と決めているが、お急ぎの電話対応は24時間行っている。訪問者用スペースはないが、仕事帰りやご家族の都合にいい時間帯に気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。	○	他の入居者に気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放しているが、常時センサーを設置している。入居者が、外出しそうであれば、その時のユニットの状況によっては、待っていただく時もあるが、一緒に付き添って行く等、安全面に配慮している。	○	職員の見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握することに努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	24時間職員はフロアーで入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみなど入居者が使用する時には注意を促している。包丁は鍵のかかる場所に保管し、薬・洗剤は目の届かないように工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の事故発生や緊急時対応についてのマニュアルを整備し、年に1回応急手当の勉強会は実施しているが、行政関係者や消防署の協力を得ての救急手当や蘇生術の初期対応の訓練は定期的には行っていない。	○	全ての職員が事故発生、緊急時対応についての理解をし、行政関係者や消防署の協力を得ての救急手当や蘇生術の研修を実施し、対応できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災防災マニュアルを作成している。	○	地域の住民の方の協力が得られるように運営推進会議の充実に努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族から安全のため鍵かけ等の要望があった場合でも、その弊害を説明し、事業所の工夫や取り組みを説明し、家族納得の上で抑圧感のない生活を支援している。	○	身体機能の維持や抑圧のない暮らしのために事業所が努力している事実(身体拘束廃止のための取り組み内容)を伝え、理解していただいている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化時には管理者、看護職員に報告するとともに、職員間で共有し対応にあたっている。状況によっては医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを介護記録の頭に表記し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は本人に手渡し服薬確認を行い、介助が必要であれば内服介助を行っている。状態変化時は看護職員や協力医療機関との連携を図るよう努めている。	○	薬の処方や用量が変更された時の情報は申し送りノートに記載しているが、その把握が徹底できるように努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品の摂取や水分摂取、体を動かす機会を設け自然排便できるように取り組んでいる。	○	薬を服用している入居者も、状態に応じて代替でセンナ茶を服用していただいている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、入居者の残存能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。	○	毎日、就寝前の義歯洗浄を嫌がる入居者は週1回の義歯洗浄を行っている。誤嚥性肺炎の防止・予防のためにも、口腔ケアの重要性を理解し実践できるように取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。また、1月に1回栄養士も含めた給食委員会を開催して献立・食材などについての意見交換を行っている。	○	献立はできているので、その日に入居者と献立を決めるといった取り組みは難しいが、要望をすいあげて給食委員会での意見として上げている。また、個々の状態に合わせて形態(刻み、あら刻み)を変えるよう取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症マニュアル、発症時消毒マニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。また、季節、地域の感染症発症状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応できるよう努めたい。	○	全職員が感染症予防・早期発見・早期対応ができるよう徹底を図りたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日その日の使いきり分の量が上がってきている。冷蔵庫の点検、整理も随時行っている。まな板、ふきんの消毒は毎日行い、確認表を作りチェックしている。また、全職員誰もができるようにマニュアルを作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が反対であり、エレベーター側からの来訪となっているので照明も少し暗く感じる。現在では実際の来訪入り口を玄関とし、花を飾ったり、施設案内を掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローにはソファを設置し、入居者がくつろげるようにしている。また、居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えるように努めている。	○	季節の行事にあった飾りや、食事(鍋、おはぎ作り)ゆず湯などに取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、一人で過ごしたり、少人数で過ごしたりできる空間をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や入居者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて家族に協力して用意していただき、入居者の居心地の良ように配慮している。	○	入居者・家族と相談しながら、使い慣れた馴染みの物を傍に置き、よりいっそう、居心地の良い居室作りに取り組みたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食事の後に換気をしており、温度計と入居者の様子をみながら空調調整をしている。廊下に芳香剤を置き、トイレは換気扇と消臭剤で臭いには配慮している。	○	空調に頼らずできるだけ自然に健康的な環境で過ごしていただくようにしたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置して安全面には配慮しているが、生活環境での作業のしやすさでは整っていない。洗濯の物干し竿の高さが高いのでスタッフと一緒にいき、安全確保は行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がどこか分からなくなる入居者には大きく居室名札を作成している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花を植えたプランターを置き、花の手入れや水遣りなどの活動を支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームすずらん第2ユニットでは、入居者の方がゆったりとした時間を過ごせるように支援しています。また、一人ひとりの習慣やその日の希望に沿って入浴していただけるように、1日を通して入浴を行っています。

外出支援では、月1回ユニット全員で外食を兼ねた外出を行い、自分で好きなものを選んで自分でお金を払って食べて頂いています。当たり前な事が当たり前に見える生活が送れるように努めています。